眠り破る烈震

土砂の波 民家のみむ

「まさか…」無事祈る家族

土砂崩れで家屋が倒壊し、救助活動を行う警察官＝6日午前7時25分、厚真町吉野（本社ヘリから、金田淳撮影）

突きげるような大きな衝撃の後、強い揺れが続いた。6日未明の道内を襲った、道内観測史上最大の震度6強の大地震。胆振管内を中心に、大規模な土砂崩れで多くの家屋が押し流され、倒壊による犠牲者も多数出たことが分かった。「こんなことが起きるとは」「経験したことがない」。人々は初めて、戦慄した。

緑色の畑や山の間を歩るちている。点在する民家は、上空からみると、厚真町吉野地区に入った途端、その道路は茶色の土砂で完全にふさがれていた。

その真さはおよそ数メートル。脇の山肌は大きくえぐられ、ヘリが住民数人を引き上げ、救出するのが見えた。

土砂をかぶりつぶされた自宅前の道路から手を振って助けを求める住民もいた。同じ道路沿いには、複数はさまざまだが、いくつもの土砂崩れの跡があった。

「どかんと突きげるような音で目が覚め、すぐがたがたと強く揺れた」。自宅が土砂に巻き込まれ、約4時間後、自衛隊のヘリで救助され町内の避難所に身を寄せた、会社員田所さん（32）は声を震わせた。

両親と兄、妹の5人暮らし。地震発生時、両親は1階、きょうだい3人はそれぞれ2階の別の部屋で寝ていた。自宅のすぐ裏が山で、土砂崩れで屋根が10メートルほど押し流された。1階はつぶれ、2階の窓から救助されたという。

「どかんと突きげるようだった。自宅はたぶん土砂の中」と田所さん。「何も考えられる状態じゃなかった。ただ両親が心配だ」と言った。

同じく数百メートル離れた自衛隊ヘリ、警察や消防が捜索を続ける。畑道さんは「山から土砂が流れていたのに、まさかこんなことになるとは」。

真貝、野口両家の一帯は、崩れ現場は「道路の消防、自衛隊らが救助作業に当たった大変だった」。同町早来大町の工場勤務の男性（46）は、自宅の2階で寝ていたが、「ものすごい地震が起き、

死者40人 避難2700人

最後まで安否不明だった男性が厚真町幌内地区で見つかり、手を合わせる捜索隊＝10日午前9時7分（防災航空隊撮影）

胆振東部地震

厚真で捜索終了

最後の不明者発見

胆振東部地震による人的被害の状況

札幌市	震度6弱（東区）
死亡	1人

むかわ町	震度6強
死亡	1人

新ひだか町	震度5強
死亡	1人

苫小牧市	震度5強
死亡	1人

厚真町	震度7
死亡	36人

建物被害の状況

全壊	32棟
半壊	18棟
一部損壊	10棟

胆振管内厚真町19棟、同管内安平町7棟、同管内むかわ町6棟
むかわ町14棟、安平町4棟
三笠市4棟、安平町3棟など
※札幌市は被害多数のため調査中

厚真町災害対策本部によると、24時間体制で続けられた捜索が最後、発見された男性が確認され、同町幌内地区の山本辰幸さん（77）と判明。同本部などによると、同町内で確認された死者36人は、大半が倒壊した自宅に生き埋めになっていたとみられ、現在も7人が行方不明。同町の土砂の中から発見され、幌内地区では2200メートル以上も砂に押し流された家屋もあったという。

安否が不明者の捜索終了を受け、震災尚市朗町長は記者会見で「亡くなった方々を悔やみ、被災者全員が厚真の宝。残念でならない」と述べた。すでに受け入れを始めたボランティアについては「復旧のために、男性にはいたさたい」と呼びかけた。

厚真町以外の死者は、札幌市南区の自宅で数日間の本の下敷きになった胆性（53）、胆振管内むかわ町の自宅でダンスの下敷きになった男性（86）、日高管内新ひだか町のアパート居室で倒れていた男性（56）、苫小牧市の自宅で転倒した高齢男性の計4人。

道などによると、10日午前10時現在、道内の負傷者は866人だった。11市町が設置した避難所計76カ所には、厚真町の2444人、札幌市の393人など計2711人が避難している。住宅被害のうち、全壊は、いずれも胆振管内の厚真町19棟、安平町7棟、むかわ町6棟。半壊と一部損壊は安平町やむかわ町などで計28棟。

厚真町によると、町内の上下水道が多く断水するまでには約1カ月かかる見通しで、市街地については一週間程度で復旧するという。

JR北海道は10日も全道でダイヤの乱れが続いた。特急は札幌－旭川、札幌－釧路が少なくとも11日まで、旭川－網走が少なくとも13日まで、運休する。節電に協力するため、10日から通勤時間帯の特急は減便して運行する。札幌市交通局は当面の間、節電のため平日の日中に限り、市営地下鉄と路面電車（市電）を運休する。

北海道新聞 2018 年（平成 30 年）9 月 10 日夕刊

厚真震度 7 道内全戸停電

北海道胆振東部地震

土砂崩れ 住宅倒壊

5人死亡、4人心肺停止

28人安否不明

全面通電まで1週間

大規模な土砂崩れで家屋が倒壊し、救出活動が続く厚真町吉野地区＝6日午前10分（本社ヘリから、朝日新撮影）

JR全線運休／新千歳閉鎖／1891校休校

通電火災に要注意

食料確保や情報収集「助け合いを」

北海道新聞 2018 年（平成 30 年）9 月 7 日朝刊

未曽有の揺れ 遠い日常

北海道新聞 2018 年（平成 30 年）9 月 10 日朝刊

雨中 全力救助

続く余震 3800人態勢

②土砂崩れが起きた現場で行方不明者を捜す自衛隊員＝8日午前8時20分、厚真町幌内（金田琢朗撮影）※泥まみしい現場の中、土砂崩れの現場で救助作業にあたる自衛隊員＝7日午後8時40分、厚真町幌内（野沢俊介撮影）

胆振東部地震による人的被害の状況

むかわ町	震度6強
死亡	1人

苫小牧市	震度5強
死亡	1人

新ひだか町	震度5強
死亡	1人

厚真町	震度7
死亡	16人
心肺停止	11人
安否不明	6人

建物被害の状況

全壊	30棟
半壊	22棟
一部損壊	10棟

胆振管内厚真町19棟、同管内安平町6棟、同管内むかわ町3棟
むかわ町14棟、安平町10棟
三笠市4棟、安平町3棟、空知管内由仁町2棟、北見市1棟
※札幌市は被害多数のため調査中

北海道新聞 2018 年（平成 30 年）9 月 8 日夕刊

被災3町 ボランティア続々

胆振東部地震 連休初日500人超

【厚真、むかわ、安平】胆振東部地震で大きな被害を受けた胆振管内厚真、むかわ、安平の3町に、3連休初日の9日、災害ボランティアが国外から続々と駆けつけた。11日後に新潟県まで迫る豪雨、3町で500人以上が、被災住宅の後片付けや避難所運営などの支援にあたった。

（「胆一」体験のマチ タクシー無償）

事前登録制で参加者を絞った厚真町では、町本部に設けたボランティアセンターで朝8時半に受け付けを始めると、テント前に100人余りの列ができ、正午までに約260人が受け付けした。

農協市の災害救助専門ボランティアセンターが入れ替わり、初日で延べ500人以上が、被災住宅の後片付けや避難所運営などの支援にあたった。

（「胆一」体験のマチ タクシー無償）

被災者を支援するために集まったんで、長い列ができたボランティアセンターの受け付けは早朝から続いた。厚真町本部（大勝れん撮影）

事前登録制で参加者を絞った厚真町では、町本部に設けたボランティアセンターで朝8時半に受け付けを始めると、テント前に100人余りの列ができ、正午までに約260人が受け付けした。

農協市の災害救助専門ボランティアセンターが入れ替わり、初日で延べ500人以上が、被災住宅の後片付けや避難所運営などの支援にあたった。

（「胆一」体験のマチ タクシー無償）

被災者を支援するために集まったんで、長い列ができたボランティアセンターの受け付けは早朝から続いた。厚真町本部（大勝れん撮影）

被災した厚真町の農業法人「ファーム・ヒロ」の作業場で、ボランティアの男性（右）と作業する男性（中央）。「ボランティアの力は大きい」と話す。厚真町上厚真（大勝れん撮影）

北海道新聞 2018 年 (平成 30 年) 9 月 15 日夕刊

被災地に応援職員次々

むかわ、厚真、安平に道内外から

豊富なノウハウ 復旧の力に

害日本大震災の経験を生かし、安平町の応援所運営に当たる岩手県の消防職員さん（左）

【むかわ、厚真、安平】胆振東部地震で大きな被害を受けたむかわ、厚真、安平の3町に、道内外の自治体から、多くの職員が応援に入っている。保健や建物の応急危険度判定士らの組織、東日本大震災を経験し、豊富な復旧のノウハウのある職員もおり、慣れない災害対応と復旧に追われる3町の力になっている。

（後藤真、山田一輝、蒲生美純）

むかわ町はこれまで、道内約140人、道外約40人が派遣された。熊本震災の知見なども、むかわと共有した。

むかわ、安平、厚真各町へ職員を派遣した自治体

	道内から	道外から
厚真町	旭川市、釧路市、室蘭市、登別市、伊達市、岩見沢市、余市市、士別市、多賀城市、せたな町（旧長万部町）、白老町、豊浦町、新冠町、様似町、社会福祉協議会（以上、胆振管内）、上砂川町、長沼町、栗山町（以上、空知管内）、士幌町、鵡川町、幕別町（以上、十勝管内）	青森、秋田、山形、福島の4県と県内各自治体
安平町	旭川市、留萌市、岩見沢市、芦別市、滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町（以上、空知管内）、森町（以上、渡島管内）、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町（以上、空知管内）、ルベシベ組合、十勝川、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町（以上、十勝管内）、釧路市、釧路湿原国立公園、阿寒国立公園、根室市、別海町（以上、根室管内）	新潟、群馬県と県内各自治体
むかわ町	苫小牧市、美唄市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町、栗山町、長沼町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町（以上、空知管内）、留萌市、小樽市、浦河町、様似町、えりも町、中札内村、更別村（以上、十勝管内）、釧路市、白糠町、釧路湿原国立公園、阿寒国立公園、根室市、別海町、厚岸町、浜中町、弟子屈町、占冠村、和寒町、剣淵町（以上、上川管内）	宮城、秋田県内市町村、福島県郡山市、横浜市（秋田）、秋田市、千葉市（以上、千葉県）、長野市、飯山市、栗山市、長野県内市町村、愛知県、滋賀県、大阪市（以上、関西広域連合）、倉敷市（以上、岡山県）、宮古市（以上、岩手県）、熊本県内各自治体

※道内は21日現在、道外は19日現在で、厚真・安平両町は総務省調べ、むかわ町は町調べ。

北海道新聞 2018 年 (平成 30 年) 9 月 22 日朝刊

被災地支援 自治体動く

胆振東部地震

むかわ、厚真、安平へ道内外から280人

むかわ町役場で、被災証明書の発行手続きを助言する熊本市職員の野野一俊氏（中央奥）＝9日（後藤真撮影）

【むかわ、厚真、安平】胆振東部地震で、甚大な被害を受けた組織管内むかわ、厚真、安平の3町に、道内外の自治体から、職員が応援に入っている。保健や建物の応急危険度判定士らの組織、東日本大震災を経験し、豊富な復旧のノウハウのある職員もおり、慣れない災害対応と復旧に追われる3町の力になっている。

（後藤真、山田一輝、蒲生美純）

むかわ町は昨年11月、御船町と熊本震災の相互応援協定を結んでおり、災害時の相互援助協定を結んでおり、災害時の相互援助協定を結んでおり、災害時の相互援助

厚真 涙と勇気

両陛下「寂しい気持ち分かります」
被災者「今日を励みに頑張りたい」

胆振東部地震の災害対応に尽力した消防隊員らをねぎらう天皇、皇后両陛下＝15日午後、厚真町（中村雅美）

【厚真】「本当にありがたい」「今日を励みに頑張りたい」―。天皇、皇后両陛下が胆振東部地震の被災地、胆振管内厚真町で15日、家や家族を失い、仮設住宅で暮らす被災者から両陛下への感謝と、復興を願う声が上がった。1989年の即位以来、象徴天皇の務めとして大切にしてきた被災地訪問を終え、両陛下は最後まで被災者に寄り添う変わらぬ姿勢を示した。

「おっちゃんでしょう。寂しい気持ち分かりますよ」「これからも元気にお過ごしください」。震度7を記録した厚真町北区の実家が土砂に流され、両親と祖母をなくした町職員の中村真吾さん（42）は慰霊碑の前で、両陛下から声を掛けられた。「天国から両親と祖母も喜んで聞いていた思う。感謝を忘れずに強く生きたい」と話した。

土砂崩れで吉野地区に住む80代の両親をなくした廣瀬美の男性（53）は、陛下に励まされ「天国の両親もびっくりしていると思う。一度は農業をやめようと思ったが、これからも頑張っていきたいと気持ちを新にした。3年前に神戸市から移住し、阪神大震災にも遭ったという。「今日の訪問は、地震発生直後から被害を案じていた両陛下の強い希望で実現した」と知事に伝えたという。

両陛下は昨夕、慰空港から厚真へ向かう車中、「行幸の事情で訪問できなかった安平、むかわ両町についても気に掛け「安平の被害の状況は」「むかわ竜は簡単でしたか」などと熱心に尋ねていたという。厚真町の橋本郷ポンプ場（西側）で、米作りを人が含まれていることなども事前に情報収集していた。

陛下は厚真町を去る際、マイクロバスの車内で立ち上がり、見送る被災者らに手を振り続けた。（斎藤佑樹、高木峻、「科裕美）

北海道新聞 2018 年（平成 30 年）11 月 16 日朝刊

地震対応で連携確認 東胆振3町長
早期復興へ定期会合
福祉や経済 幅広く議論へ

会合を終え、記者団の質問に答える（左から）宮坂町長、竹中町長、及川町長

【厚真】胆振東部地震で大きな被害を受けた厚真、安平、むかわの3町長が28日に厚真町役場で会合を開き、3町が足並みをそろえ、地域全体の復興を目指すことを確認したことで、単なる復旧ではなく、災害に強いまちづくりを進める3町長の思いが一体となった。3町は、被災者の生活再建のほか、社会福祉の充実や経済活性化など、広い視野で復興を進める考えだ。

会合は約1時間、終了後、生活再建支援法の適用や復興町の宮坂尚市朗町長は「危機的な状況で、応急復旧の取り組みが中心だった。これからは復旧、復興に向かっていく」と説明。

今後、どう取り組むかが議論の焦点となった。

生活再建支援法の適用や復興事業の前倒し、さまざまな減免措置などについて、今後も3町長が定期的に会合を開き、どう取り組むかが議論していくとした。

（金子文太郎）

「さいがいFM」収録終了
むかわ あす閉局「役割果たせた」

最後の番組収録を終え、花束を贈られる今村さん（左）と久保田さん（中央）

【むかわ】胆振東部地震による被害状況や町民生活に関する情報を伝える臨時災害FM「むかわさいがいFM」が28日、最後の番組収録を終えた。

むかわ町の竹中喜一町長は「（むかわの）全人口8600人が被災者。まずは暮らせる環境の災害復旧を住宅再建などに力を注ぎたい」と話した。

同FMは町が11月に開局。町内在住の主婦今村京子さん（68）と個人久保田タ子さん（62）がパーソナリティー（PR）を務め、平日午後6時から1時間、1時間半にわたり、「町民の生活情報を伝えたい」と話す。

開局当初は、町内の公共施設などを中心に、放送内容を聴くことのできる受信機を設置するなどして、町民への情報伝達に努めた。

「町民の生活情報を伝えるPRに力を注いでいきたい」と話した。

放送内容

厚真36人の足跡継ぎ前へ

慰霊式に遺族ら577人

胆振東部地震100日

【厚真】最大震度7を観測し大規模な土砂崩れなどにより41人が犠牲となった胆振東部地震の発生から100日たった15日、最も多い36人の犠牲者を出した胆振管内厚真町で町主催の慰霊式が行われた。遺族ら577人が亡くなった人たちの冥福を祈り、まちの復興を誓った。

会場となった町総合福祉センターで午前10時すぎ、参列した遺族らが祭壇に向かって1分間黙とう。宮坂尚市朗町長はこれまでなくした36人の名前を一人一人読み上げ、「犠牲になった皆さんが歩んだ足跡や人生は、残された私たちがしっかり伝えていく。町民一丸となって必ず復旧、復興を成し遂げ、支援いただいたみなさまに恩返ししたい」と式辞を述べた。

遺族を代表し、父武司さん(86)と母富子さん(81)を亡くした団体職員の畑島武夫さん(57)がお別れの言葉を述べた。畑島さんは「今回の地震は、厚真の基幹産業である農業に縁のある方ばかりが亡くなられた。突然の別れは信じがたく残念でならない。今日の慰霊式を契機に、地域内と、地域を超えた絆を大切にしなまた厚真を盛り立てていきたい」と誓った。

胆振東部地震で犠牲になった厚真町の犠牲者36人の追悼のため開かれた慰霊式=15日午前10時5分、厚真町総合福祉センター（中本翔撮影）

北海道新聞 2018 年 (平成 30 年) 12 月 15 日夕刊

早来中仮設校舎が完成

冬休み明けに利用開始

【安平】胆振東部地震で校舎が損壊した早来中のプレハブの仮設校舎が町早来大町の町有地で完成した。3学期が始まる来年1月15日から仮設校舎の利用を開始する。生徒たちは地震後、早来町民センターを借りて授業を受けており、ようやく自分たち専用の校舎で学べることになる。

仮設校舎は2階建て延べ床面積約1450平方㍍で、早来中から約800㍍離れた場所に建設された。1、2階にはそれぞれ普通教室2室ずつを設置し、職員室、保健室、技術室、音楽室を完備する。寒冷地仕様で壁や床、天井に断熱材を使用し、窓は2重サッシ。車いすの生徒にも対応できるよう1階はバリアフリー化し、校舎入り口にスロープを設置した。建設費は約1億4400万円。

早来中は地震によって校舎の床が沈み込んだり、体育館の暖房用ダクトが落下したりする被害を受け、応急危険度判定では立ち入りに注意が必要な「要注意」とされた。このため、避難所にもなっていた早来町民センターの3階会議室を借りて授業を再開し、体育は早来小体育館に出向いて行ってきた。

完成した早来中の仮設校舎

早来中は25日が2学期の終業式で、生徒たちが早来町民センターに通うのもこの日が最後となった。1年のク米連さん(13)は「地震後はなくの人に支えられて町民センターで授業を受けられた」。1年の松隈翔馬さん(13)は「町民センターでの授業は落ち着かなかった。新しい校舎の技術室でパソコンの授業を受けるのが楽しみ」と話した。

仮設校舎は27日に建設業者から町に引き渡される。来年1月4～6日には、損壊した校舎や早来町民センターにある備品を仮設校舎に運び込む予定。

北海道新聞 2018 年 (平成 30 年) 12 月 26 日朝刊

復興へ 厚真盛り上げ

イベントに町内外から5千人

太鼓や花火楽しむ

【厚真】昨年9月の胆振東部地震で大きな被害を受けた胆振管内厚真町で復興イベント「絆～手と手を繋いで頑張ろう厚真」が27日開かれた。地震後、避難所として使われた町総合福祉センターを会場に、地元団体による太鼓演奏や歌手の山本リンダさんのコンサートがあったほか、来場者が地震の犠牲者に黙とうをささげた。（小宮実秋）

町観光協会などでつくる実行委員会が「被災した町民が元気になる催しを開こう」と企画。町内外から約5千人が来場した。

厚真郷芸保存会の小中学生ら18人は町の復興を願い力強く太鼓を演奏。山本リンダさんやお笑い芸人コンビ「タカアンドトシ」が登場し会場を盛り上げた。地震後に公演を開き、義援金を集めてきた十勝管内池田町の池田高吹奏楽部員17人が、踊りながら演奏する「ダンス&アレー（ダンプレ）」を披露。義援金約9万円を届けた。

夜には、札幌市のNPO法人「モエレ沼芸術花火」提供の尺玉花火12発が打ち上げられ、華やかにフィナーレを飾った。家族4人で訪れた厚真町の会社経営武山富雄さん(47)は「多くの催しがあって子どもたちも喜んでいた。徐々にではあるが、町が復興へ進んでいる気がする」と話した。

町の復興を願い太鼓を演奏する厚真郷芸保存会

北海道新聞 2019 年 (平成 31 年) 1 月 28 日朝刊

福祉仮設に36人が入居

胆振東部地震で半壊 安平の特養

【安平】胆振管内安平町の社会福祉法人「追分あけぼの会」は11日、胆振東部地震で建物が損壊した特別養護老人ホーム「追分陽光苑」の入居者36人を、道が整備した福祉仮設住宅に入居させた。同会は昨年10月から、町内の高齢者向けグループホームに入居者全員を避難させていた。（千葉佳奈）

福祉仮設住宅はプレハブ平屋建て約1400平方㍍。同会職員がマイクロバスで車いすに乗った入居者をグループホームから仮設住宅に移動させ、作業は7時間ほどで終わった。

上野寧博法人本部長は「仮設住宅は積雪以上に暖かくて安心した。来年の正月は新しい場所で迎えられるよう、入居者のケアに尽くしたい」と話した。

追分陽光苑は地震で基礎やボイラー設備などが損傷し、敷地内で液状化現象や地盤沈下が発生。町の調査で半壊と判定された。同会は「JR追分駅近くの町有地に追分陽光苑を移転新築させるため、春にも着工、11月の完成を目指している。

胆振東部地震では、厚生労働省が被災者の生活支援策として、被災者向けの公営住宅の建設を検討している。むかわ町では仮設住宅に58世帯105人が入居している。町は仮設住宅の入居者を対象に住宅再建の意向調査を進めている。

町内のグループホームから福祉仮設住宅に向け車椅子利用者の入居者＝11日、安平町

北海道新聞 2019 年 (平成 31 年) 1 月 18 日朝刊

「やっと厚真に戻れた」

お年寄り笑顔、関係者安堵

福祉仮設に入居開始

【厚真】胆振東部地震による建物被害で入居者108人が避難を余儀なくされていた特別養護老人ホーム「豊寿園」（町本郷、入居60人）の入居者が町内の仮設住宅に入居を始めた21日、お年寄りは笑顔を浮かべ、施設関係者からは安堵の声が上がった。（斎藤佑樹）

豊寿園と障害者支援施設「厚真りハビリセンター」（町本郷、入居48人）は地震で建物が損壊。両施設を運営する社会福祉法人「北海道真幸福祉会」は昨年9月6日の地震直後に入居者を町外の福祉施設や医療機関に移送した。両施設の利用者は胆振、日高、十勝などの複数施設に分散して避難し、職員が通って介護する状況が続いていた。

この日は法人牧市の施設に避難していた9人が、昨年末に完成した町新町の福祉仮設住宅に移った。マイクロバス2台が到着すると、職員が「お帰りなさい。元気だったかい」と声を掛け、次々と受け入れていった。入居者は「職員の皆さんと久しぶりに会えてうれしい」などと笑顔を見せていた。まだ避難を続けている入居者は今月末をめどに

職員の手を借り、バスから降りる入居者＝21日午後2時30分、厚真町新町

北海道新聞 2019 年 (平成 31 年) 1 月 22 日朝刊

「安心できる住まいを」

厚真町 災害公営住宅建設へ

仮設入居期限に対応

【厚真】胆振東部地震で住宅が全壊した町民を対象に町が災害公営住宅の建設を決めたのは、仮設住宅の入居期限が切れる2020年末以降を見据え、経済的に余裕のない高齢者らに新たな住宅を提供することが復興には欠かせないと判断したためだ。町は「まずは町民が安心して生活できる住まいの整備を優先したい」と説明する。（斎藤佑樹、千葉佳奈、小宮実秋）

災害公営住宅は、自力では住宅を確保するのが難しい被災者のため町が国の補助を受けて整備する。30日現在、町内の応急仮設住宅、みなし仮設住宅、トレーラーハウス型の仮設住宅には178世帯398人が生活している。仮設住宅の入居期限が切れる2020年末以降、自力で住宅を見つけなければならない。

しかし、入居者には経済的に余裕のない人や高齢者も多いことから、「被災者が安心して暮らせる住まいを新たに提供する必要がある」（町建設課）と災害公営住宅の建設を決めた。

町京町の自宅が全壊し、表町の仮設住宅で暮らす山田テル子さん(87)は「高齢の1人暮らしで新しい家はとても建てられない。住み慣れた地域で暮らしたい思いもあり、新しい公営住宅ができるのであれば、入居したい」と話した。

安平町は仮設住宅に68世帯136人が入居しており、被災者向けの公営住宅の建設を検討している。むかわ町では仮設住宅に58世帯105人が入居している。町は仮設住宅の入居者を対象に住宅再建の意向調査を進めている。

約280人が生活する厚真町の応急仮設住宅

北海道新聞 2019 年 (平成 31 年) 1 月 31 日朝刊

厚真の仮設店舗完成 4事業者に鍵引き渡し

被災3町 整備完了

【厚真】胆振東部地震で大きな被害を受けた事業所のために町が建設してきた仮設店舗が11日完成し、4事業者に鍵の引き渡しが行われた。鍵を受け取った事業者は荷物の搬入などを始めた。これで厚真、安平、むかわの被災3町に整備された仮設店舗計4棟10店舗分がすべて完成し、事業者に鍵が引き渡された。

厚真町の仮設店舗は町中心部の京町の町商工会横に1棟建設し、木造平屋建て、延べ床面積は約142㎡。床や壁に断熱材を使用した寒冷地仕様だ。建設費は4849万円で中小企業基盤整備機構が全額補助する。入居期限は2022年3月末で家賃は無料。

入居するのはカフェとヨガスタジオのリラクゼーション業、リンパマッサージ業、整体院、個人輸出入業事務所の4事業者。この日は全事業者が鍵を受け取った。

町豊沢のルーラルビレッジで整体院を営む丸山聡史さん(46)は施術用のベッドや椅子を搬入し、早速、予約を受けていた患者の施術も始めた。

丸山さんは「傾いた店舗ではなく、しっかりした所で無事再開できたことがとてもうれしい。大好きな厚真のため頑張りたい」と笑顔だった。

仮設店舗は安平町では1棟3店舗、むかわ町では2棟3店舗が整備されている。

(斎藤佑樹)

鍵の引き渡しを受けた仮設店舗に施術用のベッドを運び入れる丸山聡史さん

北海道新聞 2019年 (平成31年) 3月12日朝刊

体育館の壁やステージに展示された笑顔の写真を見る早来小の6年生 (金田翔撮影)

被災地照らす3万5千の笑顔

早来小児童 写真集める

【安平】胆振東部地震で大きな被害を受けた胆振管内安平町の人口と同数の笑顔の写真を集めようと、町立早来小6年生26人が取り組んできた「8000人の笑顔プロジェクト」で、目標を大きく上回る3万4876枚が集まった。

6年生は「ボランティアや町役場の人たちに感謝を伝え、まちの人を元気付けたい」と、昨年11月から町内外で笑顔の人の写真を撮影してきた。

集めた笑顔の写真を学校体育館の壁やステージに展示した12日の報告会で、6年生4人が写真の総数を書いた画用紙を掲げて発表すると、町内外から参加した約100人から拍手や歓声が起こった。

6年生は1人ずつ「努力が結果に結びつくことが分かった」「地震があっても変わらなかったのは町民の人たちの優しさだった」などと、プロジェクトを通して学んだことや感想を語った。小貴蒼衣さん(12)は「8千人の写真を集めるのが最終目的ではなく、安平町を元気にしたいという思いでいっぱいだった。結果を知り、本当にうれしかった」と笑顔で話した。

(千葉佳奈)

北海道新聞 2019年 (平成31年) 3月13日朝刊

厚真で震度6弱

M5.8 胆振東部と「一連」

原発、火発異常なし

21日午後9時22分ごろ、道央を中心に強い地震があり、胆振管内厚真町で震度6弱を観測した。気象庁によると、震源地は胆振地方中東部で、震源の深さは約33㎞。地震の規模はマグニチュード(M)5・8と推定される。昨年9月6日の胆振東部地震で厚真町で震度7を観測して以降では、道内で最大の地震。道警によると、苫小牧市内の工場の従業員2人が転倒し病院に搬送された。気象庁は、今回の地震を胆振東部地震の一連の活動とみて、今後も強い揺れが当分続く可能性があるため、警戒を呼び掛けている。

(2面=グラフ、32面=道都立ちすくむ、33面=大地震「またかと」)

各地の震度は胆振管内安平町とむかわ町が震度5強、札幌市北区、手稲区、千歳市、空知管内長沼町、日高管内平取町が震度5弱。苫小牧市や北広島市など7市で震度4を観測した。津波はなかった。消防庁は、全国瞬時警報システム(Jアラート)の緊急地震速報を道内の広い範囲に出した。

苫小牧市勇払のトヨタ自動車北海道で従業員の30代男性、40代女性の2人が避難中に転倒、頭部を打ち、市内の病院に搬送された。苫小牧署によると2人とも意識はあるという。

厚真町によると、豊沢地区で水道管が破裂し、22日午前0時現在、約111戸が断水した。昨年9月の地震で大規模な土砂崩れが発生した青野地区と幌内地区で倒壊が確認された。また、町内2カ所に避難所を開設した。

むかわ町は町内に一時3カ所の避難所を開設し、22日午前0時現在、1カ所に5人が避難している。また、町内の住宅の煙突1本が折れたという。

JR北海道によると、地震後、千歳市幌加の路線で少なくとも列車3本が停止し、22日午前0時半現在、乗客約300人が車内に閉じ込められている。

札幌市営地下鉄は地震後に全区間で運行を停止し、安全確認のため運転を見合わせた。点検が終了次第、運転を再開する。都心部の市民らが足止めされたため、札幌市は中央区の札幌駅前通地下歩行空間と市民交流プラザを開放し、帰宅困難者を受け入れた。

国土交通省新千歳空港事務所などによると、新千歳空港は2本ある滑走路のうち1本を安全確認のため一時閉鎖した。この影響で22日午前0時半現在、約150人が空港内に足止めされた。

北海道電力などによると、泊原発(後志管内泊村)や道内の火力発電所に異常は確認されておらず、22日午前0時現在、停電は発生していない。

政府は21日夜、胆振管内厚真町で震度6弱を観測した地震を受け、官邸の危機管理センターに官邸対策室を設置し、被害状況の把握を急いだ。菅義偉官房長官は午後9時50分すぎに官邸で開いた緊急記者会見で「現時点において大きな被害の情報は入っていない。北海道電力泊原発、電源開発大間原発などの原子力発電所、苫東厚真火力発電所にも異常はないとの報告を受けている」と述べた。

その後の午後11時すぎの会見では「現時点で人的被害(の情報)は入っていない。新たに土砂崩れが発生していないか、警察、消防、自衛隊が被害情報の収集に全力で当たっている」と説明した。

会見に先立ち、安倍晋三首相は官邸前で(1)早急な被害状況の把握(2)救命・救助に全力で取り組む(3)国民への避難や被害に関する適時的確な情報提供―を指示した。

被害把握 政府急ぐ

道内の震度2以上の地点は次の通り。

▽震度6弱 厚真

▽震度5強 安平、むかわ

▽震度5弱 札幌市北区、東区、厚真、苫小牧、登別、平取

▽震度4 苫小牧、登別、白老、札幌市東区、豊平区、石狩市、岩見沢市、恵庭、北広島、岩内、三笠、南幌、由仁、栗山、月形、日高、石狩、新篠津、新冠、新ひだか

▽震度3 室蘭、札幌市中央区、岡市南区、夕張、美唄、当別、函館、鹿部、小樽、余市、赤井川、真狩、留寿都、喜茂別、倶知安、芦別、奈井江、浦臼、中富良野、占冠、伊達、胆振、噴火、室蘭、博物、浦河、鹿追、清水

▽震度2 北斗、上磯、森、横津、丹、古平、仁木、ニセコ、京極、赤井川、積丹、余市、増毛、留萌、苫前、羽幌、上砂川、雨竜、富良野、上富良野、南富良野、豊頃、社台、横浜、上士幌、新得、足寄、帯広、音更、士幌、幕別、池田、豊頃、本別、八雲、長万部、知内、木古内、上国、厚沢部、乙部、せたな、父別、北竜、沼田、和寒、剣淵、岩内、喜茂別、深川、妹背牛、秩父別、旭川、鷹栖、東神楽、当麻、美瑛、留萌、増毛、中札内、更別、大樹、広尾、鶴居、白糠

地図を広げて町内の被害状況を確認する町職員ら=21日午後11時20分ごろ、厚真町役場

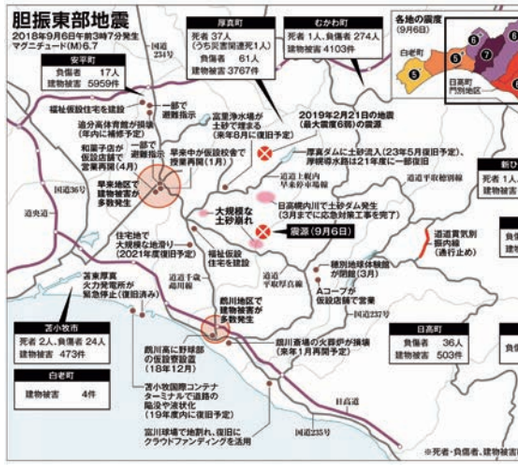
北海道新聞 2019年 (平成31年) 2月22日朝刊

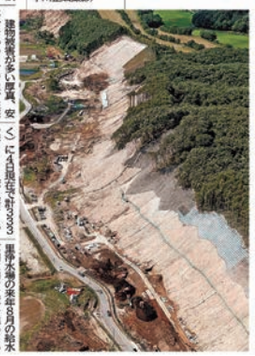
被災3町 復興の歩み

胆振東部地震から1年

仮設暮らし なお333世帯

厚真町で最大震度7を観測し、震源に近い胆振地方に甚大な被害をもたらした胆振東部地震は、6日で発生から1年を迎える。大きな被害を受けた厚真、安平、むかわの3町では、被災した建物の解体や土砂の撤去が進み復旧・復興への歩みが進んでいる。一方、町の仮設住宅などでは現在も800人以上が仮住まいを続けており、被災者の生活再建に向けた長期的な支援が求められる。





大規模な土砂崩れが起きた厚真町吉野地区では復旧に向け治山工事が進む＝8月27日(本社ヘリから、小川正成撮影)

道の災害検証委員会から5月にまとめた報告書などによると、東胆振・厚真地方では厚真町と苫小牧市、むかわ町で計41人(災害関連死1人を含む)が亡くなり、負傷者は計429人(うち重傷183人)だった。

住宅は計4968件(うち全壊1507件、半壊2411人)にのぼった。建物被害が多い厚真、安平、むかわの3町では、住宅を失った被災者が暮らす仮設住宅(簡易応急仮設住宅を除かない)に4日現在で計3331世帯675人が居住する。空き家や民間賃貸住宅などを活用した生活再建に向けた取り組みが続いており、新たな世帯数が減っている。町は来年3月末の全面解除を目指し安全対策工事を進める。

インフラは一年たっては復旧した。地震による道路の通行止めは一部の道道や町道を除き全て解消、水道は、厚真町が土砂に埋まった富里浄水場の来年5月の給水再開に向け工事を進めている。農業の復興に向けた動きも進む。

3町には仮設住宅団地がそれぞれ整備されたほか、農地は流入した土砂が年内に除去される見通しが立った。林業も今後、道内が町内の道有林で森林再生に向けた植栽試験を行う予定だ。(鈴木恵一)

町が原案 公営住宅整備など55項目

むかわ復興7年計画

【むかわ】胆振管内むかわ町は3日、昨年9月の胆振東部地震で被災した町の復興計画の原案をまとめた。住宅の自力再建が困難な被災者向けに、公営住宅などで計30戸を整備することをはじめ、55項目の取り組みを盛り込んだ。(小宮実秋)

計画期間は2019～25年度の7年間。被災者の生活再建では、災害救助法で入居期間が2年間とされる仮設住宅の住民へのアンケートなどを踏まえ、20年度に公営住宅18戸を整備するほか、地震で損壊した町営住宅12戸を建て直すとした。損壊した鵡川高野球部寮も再建する方針。保健師らによる被災者の心のケア対策や訪問事業の充実も盛りこんだ。

防災機能の強化では、海岸に近い津波浸水想定地域内にある胆振東部消防組合消防署鵡川支署を20年度までに内陸部に移転新築する。町役場も浸水想定地域にあることから、24年度までに被災時に対応できる防災庁舎を整備することも明記した。

原案は町のホームページや、むかわ町役場、穂別総合支所で閲覧できる。町は4日から18日まで意見を募集する。今月中に復興計画を決める。

復興まちづくり計画へ議論

安平で「町民懇談会」始まる

町民まちづくり懇談会で復興への意気込みを語る及川町長

【安平】胆振東部地震からの復興まちづくり計画策定に向けた「町民まちづくり懇談会」が11日夜、遠浅公民館で始まり、及川秀一郎町長らが生活再建などに向け町民と意見交換した。

21日まで町内4地区で開く。

復興まちづくり計画は今後のまちづくりの方向性を示すもので、町総合計画の一部に位置付ける。町民の意見を反映させるため、アンケートも実施し、11月に計画素案を示し、年内をめどに策定を目指す。

この日は、12人が参加し、及川町長らが計画の基本方針やアンケートの途中結果などを説明。会場からは「ときわ公園にあるテニスコートを早期復旧してほしい」「若者との交流を促進する場の提供を」などと意見が出た。

18日夜には早来町民センターでも開催。懇談会はいずれも午後6時半からで、20日に追分公民館、21日に安平公民館で開く。(千葉佳奈)

北海道新聞 2019年 (平成31年) 6月19日朝刊

北海道新聞 2019年 (令和元年) 7月4日朝刊

安平町「半壊以上」の住宅新築に100万円

生活再建 最優先に

支援策 12月以降実施

【安平】胆振東部地震で大きな被害を受けた町は、年内の復興まちづくり計画策定に向け、検討している支援策をまとめた。半壊以上と判定された住宅を解体し、新築する世帯に100万円を支援するなど、被災者の生活再建を最優先に対応する項目を掲げた。(千葉佳奈)

復興まちづくり計画は町総合計画の一部に位置付けられ、今後のまちづくりの方向性を示すもの。期間は2019～22年度の4年間で、復旧期、復興期の2期に分ける。

検討しているのは、半壊以上と判定された住宅を解体し、新築する世帯に100万円、半壊以上の住宅を修理する場合は上限20万円を支給する。仮設住宅のトレーラーハウスやモバイルハウスで暮らす世帯に対し、購入費として100万円。住宅再建を望む町外避難者が町内に戻ってこられるよう、引っ越し費用を10万円を上限に助成する。

支援策は、町に寄せられた寄付を元にした災害支援金を財源に充てる意向。今月5～8日に町内で開かれている町民まちづくり懇談会で出た町民の意見を反映し、修正した内容を11月に再度提示する。事業は計画を策定する12月以降に実施する見通し。

町は「住宅再建を最優先に考え、将来を見据えた魅力的なまちづくりをしていきたい」としている。

安平町が年内の復興計画策定に向け、検討している支援策（一部抜粋）

項目	具体的な対応
住宅を解体し、新しく家を建てる世帯（半壊以上）	100万円助成
住宅修理（半壊以上）	上限20万円助成
住宅を解体し、モバイルハウス、トレーラーハウスを購入（半壊以上）	100万円助成
住宅が損壊したため、公営住宅に居住する世帯	一時入居の期限を1年から2年に延長
町外に避難する世帯が町内に引っ越す	上限10万円助成
新規整備	特定公共賃貸住宅（特公賃）整備 民間アパート建設費助成

北海道新聞 2019年 (令和元年) 9月7日朝刊

むかわ町の被災者向け住宅建設地

公営は駅前、町営は跡地に

本年度中に実施設計

【むかわ】町は、胆振東部地震の被災者向けに2020年度中に整備する公営、町営住宅計30戸の建設予定地を明らかにした。公営住宅2棟18戸はJR鵡川駅前の民有地（末広1）、町営住宅12戸は地震で全壊し、解体している町文京1の町営住宅の跡地にそれぞれ建設する。本年度中に実施設計を完了させる方針。（小宮実秋）

町は、7月に復興計画を策定。自宅に被害を受け、自力再建の難しい町民向けに新たに公営住宅18戸の建設と、地震で全壊した町営住宅12戸の再建を20年度中に完了することを明記した。

町によると、公営住宅の建設地は既存の公営住宅2棟の西側の2377・1平方メートルで、2階建て2棟を整備する方針。公営住宅法に基づき整備し、入居に関して所得制限を設ける。

町営住宅は、解体を進めている跡地の町有地（1782・8平方メートル）に3階建て1棟を建設する予定。所得制限は設けず、現在仮設住宅で生活し、町営住宅に戻ることを希望している元住民9世帯に優先して入居してもらう。災害などで住居を失い、同じ場所に住宅建設する際に、国が建設費の3分の2が補助する「小規模住宅地区改良事業」などを活用する。

町は、実施設計費450万円を盛りこんだ本年度一般会計補正予算案を10日開会の定例町議会に提出する。可決されれば、10月に事業に着手する。

町は「被災者が安心して生活できるようスピード感を持って整備を進めたい」（建設水道課）と話している。

北海道新聞 2019年 (令和元年) 9月6日朝刊

生活再建 長期支援を

北海道新聞 2019年 (平成31年) 9月5日朝刊

胆振東部地震 1年の歩み

■2018年9月■

6日午前3時7分　胆振東部を震源とするマグニチュード（M）6.7の地震が発生。厚真町で震度7、安平町で震度6強、日高町門別、平取町で震度6弱、苫小牧市で震度5強を観測

13日　安平町の追分小が追分中校舎を間借りして授業を再開。早来中は14日から早来町民センターで再開。18日には厚真、むかわ両町の全小中学校でも再開

17日　JR室蘭線岩見沢―苫小牧間が運転を再開

24日　停電で氷が解けた苫小牧市白鳥王子アイスアリーナが営業を再開

25日　日高町のドリームパーク門別競馬場で道営ホッカイドウ競馬のレースが再開。10月2日にはナイター営業も再開

27日　イオン苫小牧店が約3週間ぶりに全面再開

■10月■

1日　厚真町青少年センターの図書室が再開。16日には安平町の早来、追分両地区の図書室も再開

2日　厚真、むかわ両町の小中学校で給食が再開

5日　厚真やむかわ町穂別、平取で震度5弱を観測する地震が発生

9日　厚真町の水道管復旧が完了し、地震に伴う道内の断水はすべて解消

10日　北電の苫東厚真火力発電所の全3基が復旧

14日　陸上自衛隊第7師団（千歳）による被災地の給食支援が終了

20日　新ひだか町のイオン静内店が営業を再開

■11月■

1日　厚真、安平、むかわ各町で第1期分の応急仮設住宅への入居開始＝写真＝

10月2日 小中校で給食再開

11月1日 仮設住宅の入居始まる

■2019年1月■

15日　安平町の早来中がプレハブ仮設校舎で授業開始＝写真＝

17日　安平町の特別養護老人ホーム「追分陽光苑」の入居者が避難先から福祉仮設住宅に入居始まる。21日には厚真町の特養ホーム「豊厚園」の福祉仮設住宅でも入居開始

21日　安平町の追分中を間借りしていた追分小が、元の校舎で授業を再開

■2月■

1日　苫小牧市の鹿猟施設「MEGAドン・キホーテ苫小牧店」が約5カ月ぶりに全面再開

21日　厚真町で最大震度6弱を観測する地震が発生。厚真町豊沢地区で最大150戸が一時断水

■3月■

1日　むかわ町の仮設店舗が完成＝写真は5月の開店セレモニーの様子＝。安平町では7日、厚真町では11日にそれぞれ完成し、被災3町で計4棟10店舗が整備

31日　むかわ町で被災した穂別地球体験館が27年の歴史に幕

■4月■

3日　むかわ町の穂別図書館が約7カ月ぶりに再開

6日　厚真町で被災建物の公費解体に着手

12日　厚真町吉野地区で被災した吉野神社の跡地付近で最後の神事

16日　厚真町議選が告示。定数11に対し10人が無投票当選、初の定員割れに

19日　安平町の道の駅「あびらD51（デゴイチ）ステーション」開業。6月14日に蒸気機関車（SL）移設

■5月■

1日　むかわ町の生花店「花よし鵡川店」が被災3町で初の再建店舗で営業再開

10日　安平町で被災建物の公費解体に着手

20日　むかわ町の鵡の舞ビッグスギゴルフ倶楽部（くらぶ）が復旧を断念し、閉鎖を決定

■6月■

24日　厚真産ハスカップの初競りで過去最高値が付く

29日　厚真町は避難所の仮設入浴施設で倒れ、死亡した町内女性（81）＝当時＝を災害関連死に認定

■7月■

10日　安平町スポーツセンターの温水プールが10カ月ぶりに営業再開

19日　厚真町が森林再生に向けた「森林再生・林業復興検討会議」を設置

31日　むかわ町が被災3町で初めて復興計画を策定

■8月■

21日　厚真町は災害公営住宅を早ければ12月に着工する方針を固める

30日　安平町は早来地区の避難指示を早ければ11月上旬にも、追分地区の避難指示を来年2月末までに全面解除する見通しを示す

3月31日 地球体験館が閉館

7月31日 むかわ町、復興計画策定